

内視鏡が本格的な手術として登場したのは、やはり 1990 年前後より始まった胆嚢摘出術が先駆けであろう。その後は、各領域でそれぞれ従来の手術の中から展開を図りながら、現在に至っている。その間には器具や術式の開発・改良などによる適応の拡大化、さらには新たなメディアの導入などで、患者への QOL の提供を目指した内視鏡手術はこの 20 年足らずの短期間で目覚ましい発展をなしてきた。しかし、内視鏡手術の進化の過程では、忘れることのできない幾つかの不幸をもたらした事実も刻まれている。そのような負の遺産を克服すべく、本学会においても内視鏡手術の健全な普及と発展を目指した“技術認定制度”を立ち上げ、国民からも分かりやすい医療水準の現状提供も図ってきた。さらには後継者の育成を促進すべく後期臨床研修の課題にも内視鏡手術は必須項目になる予定である。一方、他の業界でも起きている再編化という新たな流れが、医療界の中にも大きな潮流として押し寄せている。その 1 つとして、内視鏡手術の中でも“集約化”という新たな展開が動き出しているようである。しかし、功罪はあるものである。対象患者からは喜ばれる反面、従来の医療形態とはそぐわない医療体系に批判的な意見もあろう。生みの苦しみともいえる一定の期間は耐え忍ぶ時間の流れも必要と思われる。

しかし、周辺からは、内視鏡手術に対する患者の期待の大きさや機器や器具の取り扱いなどの不安もあったが、クリニカルパスを生かせる円滑な管理や、術者と同じ情報の共有化による一体感から、より積極的な治療参加につながるなどの声もある。また、麻酔医師からは、従来の手術法に比べ硬膜外麻酔を要しない分麻酔時間は短く、麻酔管理も行いやすい反面、かえって手術の増加につながるしわ寄せや、難度の高い症例による大幅な予定時間の延長を大きな問題点として挙げている。一方、病院経営の面からはいかがであらうか。外来でも入院でも一人当たりの医療費単価は約 1.5 倍上がり、希望患者の増加により経営面では功を挙げることが、麻酔医師の待遇改善、手術枠の確保、看護師や医師に対する満足度の充足、待ち患者の解消などが課題となろう。しかし、内視鏡手術の“集約化”は始まったばかりで、その展望や方向性はこれからのことになろう。

いずれにしても、医療界においても、それぞれの施設の持つ役割の見直しと、各領域におけるそれぞれの特徴を生かし得る再編化が迫られる時期にきている。多岐にわたる診療内容を今一度検討して、結果的にバランスの取れた診療の充実と円滑化を図ることが期待される。今後、内視鏡手術に求められる内容はますます高くなると思われる。単にこれまでの手術法を内視鏡手術に切り替えればよいということだけですむわけではない。医療においても今後につながる体系の再編成に向って英知を結集させ、そのことが患者側への反映につながることを求められている。そのためには、従来法の手術法にも精通した環境と、麻酔科を初めとする関連する科との連携や協調がますます大切になっていくことを再認識しながら筆を擱く。

(伊熊健一郎)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 13 巻 第 3 号) 2008 年 6 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価：会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 2,940 円 (本体 2,800 円 + 税 5%) となります。

2008 年 年ぎめ予約購読料：17,160 円 (税込) (配送料：医学書院負担)

編集・発行：日本内視鏡外科学会 (代表：北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区代田町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当：佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2008, Printed in Japan

発売：株医学書院 (代表：金原 優) (本誌担当：土田、中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷株 ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (有文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044))

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●症例報告

- 腹腔鏡下に切除した虫垂粘液嚢腫軸捻転症の 1 例 京極典憲・他 札幌 KKR 医療センター
斗南病院消化器病センター外科
- 胸腔鏡下手術が有効であった食道癌術後乳び胸の 1 例 清水 哲・他 鳥取県立中央病院外科
- 腹膜透析カテーテル位置異常に対し腹腔鏡下に整復および
peritoneal wall anchor technique で腹壁固定を行った 1 例 中野雅人・他 新潟大学院消化器・一般外科
- 切除不能幽門狭窄胃癌に対する腹腔鏡下部分的曠置的胃空腸吻合術の 1 例 三松謙司・他 社保横浜中央病院外科
- 腹腔鏡下胆嚢摘出術時に発見された副肝の 1 例 羽田匡宏・他 金沢市立病院外科
- 腹腔鏡下 Hassab operation を施行した胃静脈瘤の 2 例 山川俊紀・他 香川県立中央病院外科
- 腹腔鏡下に治療しえた Meckel 憩室による腸閉塞の 1 例 石原 明・他 秦病院外科・胃腸科
- 腹腔鏡補助下に最終診断し治療した Meckel 憩室の 1 例 三澤良輔・他 市立大町総合病院外科
- 術前診断が可能であった胆嚢結腸瘻に対し腹腔鏡下手術を施行した 1 例
..... 森川孝則・他 東北大学肝胆脾外科
- 再発閉鎖孔ヘルニアに対するメッシュ・プラグによる腹腔鏡下ヘルニア修復術の 1 例
..... 高井昭洋・他 市立宇和島病院外科
- 腸管子宮内膜症に対する腹腔鏡補助下大腸切除術の 1 例 秦 政輝・他 順天堂大学医学部消化管外科
- 腹腔鏡下に完全切除し得た成人後腹膜リンパ管腫の 1 例 川口 清・他 済生会山形済生病院外科
- 胃体部が嵌頓した腹壁癒痕ヘルニアと傍ストーマヘルニアに対する腹腔鏡下修復術の 1 例
..... 大城望史・他 県立広島病院一般外科

●手術手技

- 完全腹腔鏡下胃切除術における標本摘出の工夫—臍縦切開法 河村祐一郎・他 姫路医療センター外科
- 小児の胃食道逆流症に対する腹腔鏡下 Boerema-Filler 噴門形成術の経験
..... 木村拓也・他 近畿大学奈良病院小児外科